

27-8 経営協議会議事概要

日時 平成28年3月23日(水) 15:00~17:05

委員 駒田学長(議長)

青木, 志田, 銭谷, 高木, 西岡, 向井, 村本, 渡辺

山本, 鶴岡, 尾西, 加納, 鈴木(英) 各委員

列席者 富樫, 後藤, 吉岡, 西村, 堀, 新保 各副学長

武田参与 橋本, 山中 各監事

◎議事概要の確認

27-6, 27-7の議事概要(案)について, 了承された。

I 審議事項

1. 第3期中期目標期間の財政運営について

鈴木理事から, 「資料1」及び「参考資料1・2」に基づき, 今後の財政運営の向上のための具体的な方策5点について説明があり, 審議の結果, 了承された。

〈主な意見〉

- 将来の改善計画を立てるプロジェクトチーム(小集団)により検討するとよい。
- 人件費の削減により人を削減するということは大学にとって士気が下がるものである。
- いかに外部資金を獲得していくかが重要であるので努力いただきたい。
- 人件費について毎年2%減というのは大学の体力を削いでいくものと考えられる。
- 外部資金をどのように獲得していくかの議論を真剣にしていく必要があるであろう(どの分野でどのように獲得していくか)。
- 大学として知の拠点としての機能が衰退していくことはあってはいけない。

2. 平成28年度学内予算配分案について

鈴木理事から, 「資料2-1から資料2-3」に基づき, 説明があり, 審議の結果, 了承された。

3. 平成28年度年度計画(案)について(資料3、参考資料1~4)

尾西理事から, 「参考資料2から4」に基づき, 3月1日付けで文部科学大臣より第3期中期目標が示され, これを受け3月2日付けで文部科学大臣に本学の第3期中期計画の認可申請を行った旨の報告があった。

続いて, 「資料3」及び「参考資料1」に基づき, 重点事項を中心に, 平成28年度年度計画(案)について説明があり, 審議の結果, 原案どおり了承され, 役員会において最終的な取りまとめを行い, 文部科学大臣宛に提出することとし

た。

学長から、提出までに更に精査を行うので、その際に修正等があった場合は、一任願いたい旨の発言があり、了承された。

〈主な意見〉

- 研究と国際交流という点で中経連（中部経済連合会）に加入してはどうか。
また、教育に関しては国体に絡めて何かできないのか考えてみてはどうか。
- 伊勢志摩サミットに関連して大学としてなにかしないのか、三重大学をアピールするのにいい機会だと思う。
- 航空機産業は今後発展すると考えられるので三重大学にとっても重要だと考えられる

4. 役員の退職手当における業績勘案率について

学長から、「資料4」に基づき、平成28年3月31日付けで任期満了となる監事の在任期間中の業績についての説明があり、審議の結果、了承された。

II 報告事項

1. 平成28年度経営協議会開催日時について

学長から、平成28年度経営協議会開催予定日について、「資料5」に基づき報告があった。

2. その他

(1) 次回開催について

平成28年6月3日（金）13：30から開催することを確認した。

(2) 「学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法」について

山本理事より、席上へ配布された書籍「学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法」についての報告があった。

III 意見交換

1. 中小企業との共同研究を倍増させる方策について（資料6）

鶴岡理事から「資料6」に基づき本学の現状についての報告があり、種々意見交換を行った。

〈主な意見〉（○委員側 ●大学側）

- 地方にも優れたビジネスモデルをもっている企業があると思うので銀行、商工会議所と提携すると伸びるとともに、地方創生にも繋がるものだと思う。
- 大学が何をしているのかを企業は分かっていないことが多いのでその問題解決が必要（積極的な情報提供、情報発信）。
- 自社でも大学がどんな研究（研究開発）をしているのかを簡単に見つけだす

ことができないものかと思う（実際に相談にきたが見つけることができなかった）、産業支援センターなどへの情報提供も必要かと思う。

- 地域拠点サテライトで企業と大学とのマッチングをしてもらえるといいと思う、フェーストゥフェースも重要である。
- 中小企業同友会といった組織もあり、各支部をもっており次期経営者がいる、そういったところと提携してもいいのではないか。
- 県内の中小企業からみると三重大学の敷居は高いと思われる。
- 産学連携ではなく、産官学連携（企業、三重県、大学）とし推進していくべきではないか、県を巻き込んだプロジェクトもいいと思う。
- 現在、県内の企業回りを行っており、県内には多くの非常に素晴らしい企業があるということを実感しているところである。

また、大学は敷居が高いと言われることは非常に辛いことであり、この敷居を低くすることは学長の役目であると思いながら、今後も多くの企業を回ることとしたい。

以上